

大念佛

No.100

発行/融通念佛宗
総本山 大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026



このQRコードで
大念佛寺にアクセスできます。

大念佛寺 で 検索
<https://www.dainenbutsuji.com/>

題字：融通念佛宗 管長 吉村暲英



お盆によせて

融通念佛宗管長 吉村暲英

魂祭り

日本には古くから「盆・正月」という言葉があり、二大節期として国民的行事になっています。この二大行事は、いずれも魂祭りといって先祖霊を迎えて饗応し、生者も死者も一体となって和やかに懐古と感謝の中にひとときを過ごします。

ところでお盆に先祖霊を迎えて魂祭りをするのは当然ながら、正月に魂祭りとは意外に思うでしょうが、本来は正月も先祖供養が重要な行事でした。今でも正月には床の間に鏡餅を供えますが、古来、餅は先祖の靈魂を象徴したものととして尊ばれました。家中で最も清浄な床の間にご先祖様をお迎えし、新年を祝って魂祭りをした名残りなのです。

また、徒然草第十九段、折ふしの移りかわりの一章に、「大晦日の夜は亡き人の魂が帰ってくる夜なので、魂祭りをするのは、この頃はもう都にはなくて絶えてしまったが、東国（畿内より東の諸国を呼ぶ称）の方では、まだまだ引きつづき執り行われているのは、まことに趣き深いことである

よ」との記述があるのを見ても分かります。

盂蘭盆経

お盆行事の典拠は盂蘭盆経です。お釈迦様の十大弟子の一人である目連尊者が神通を得て、亡母の行方を捜したところ、意外にも母は餓鬼道に墮ちて苦しんでいるではありませんか。目連は鉢に飯を盛って母に食べさせようとしたところ、飯が口に入る前に炎と化してしまいます。これを

大いに悲しみ、お釈迦様に救いを求めたところ母の罪業が深く、たとえ孝順（親孝行）の心が深くとも、一人の力ではどうすることもできない。そこでお釈迦様は目連に、雨期三ヶ月間の屋内での修行を終える七月十五日に、修行僧たちに食事を供養することによって、母の苦しみを解くことができると教えられ、その功德によって七世の父母（過去七代からの父母）を救うことができました。

この教えがもとになって、飯食、五果、百味を供養する善行が広まりました。今でも月遅れの盆として八月十三日から十五日（または十六日）

供養のころ

お盆は盂蘭盆の略称で、梵語でウランバナといわれるものです。亡き人が飢渴で苦しむことがないように供養する行事に根ざしています。しかも我が家の先祖霊だけを供養するのではなく、有縁無縁の一切の諸霊に供養を施す心を忘れないことが大切なのです。これを三界万霊供養と称します。

お盆と関連してこの時期には各寺々では施餓鬼会が勤まります。これは餓鬼を供養する法会のことです。嫉妬深い人や、物惜しみや貧乏な行為をした人の赴く所を餓鬼道といいますが、そこから抜け出し安楽の世界に導いていくのが供養の力です。

お盆も施餓鬼も供養の大切さを説いているわけですが、どんな供養であれ最も大切なことは、限らない敬いと感謝の心を捧げ尽くすことです。それによって先ず救われるのは、他ならぬ供養を捧げた私たちであるということです。

『大念佛』 100号を迎えて

編集委員長

現在発行されている『大念佛』は昭和六一年五月の創刊で、白黒の紙面で題字は平仮名で『だ いねんぶつ』でスタートしている。当時の法主は田代尚光猷下であった。平成二年一月発行の第七号から、カラーの紙面となる。第三十七号からは、題字は『大念佛』になり、当時の法主、倍巖良舜猷下に揮毫していただいたことは記憶に新しい。

本山の新聞ストックファイルを見返してみると、昭和三十八年に、『大念仏時報』という新聞が創刊されている。

紙面は白黒、現在よりかなり字が小さいので、記事も豊富である。創刊号には、当時の法主西洞院時雄猷下をはじめ、宗務総長、大阪府知事や議員などの祝詞が寄稿されていた。昭和五十一年三月発行の三十八号から題字が『大念仏』になり、昭和

五十六年四月発行の五十二号から『大念佛』になっていた。昭和六十年四月発行の六十三号が最終となるが、最終号のみカラー紙面になっていた。この第一世代の新聞は、現在の新聞より宗門僧侶向けの傾向が強く、記事の内容も本宗のみならず、他宗のことや社会問題にも言及したものが多かった。この記事を書くにあたり、過去の新聞を見返していると、当時の編集委員の知識の豊富さ、記事に対する意気込みが伝わってくる。

現在の編集委員会では、檀信徒のみならず、「どなたにも、読みやすくわかりやすい」というコンセプトを持って制作している。これからも融通念佛宗や大念佛寺を多くの方に紹介できるように、編集委員一同、積極的に新しい発想も受け入れて、紙面を作って行きたいと思う。

**大念佛寺
Instagram
始めました**

このQRコードで
アクセスできます。

DAINENBUTSUJI.1117

フォローしてね

四祖師の木像が 大阪市指定有形文化財 指定の運びに

大念佛寺の本堂には四祖師の像が安置されています。



舜空上人

大通上人

法明上人

良忍上人

須弥壇の右（北）側には宗祖良忍上人座像、左（南）側には中祖法明上人座像が、そして右余間には再興大通上人倚像、左余間には舜空上人座像がそれぞれ祀られています。

文化財指定にあたっての文化財保護課の所見の一部を紹介いたします。

木像良忍上人座像

「木造良忍上人座像は被帽し、帽子を外した状態での像高が八五センチ。内衣の上に法衣を着け、その上に袈裟をかける。幅広の面は上頬がやや張り出し、伏し目で目尻がやや下がる。表情は硬いが穏やかである。右手は筆を、左手は経巻を執る。像底のくりぬいたところに朱銘があり、信者が施主となり、逆修供養のために造立したことが分かる。硬質な彫り口や角張った造形をふまえると、制作年代は十六世紀後半から十七世紀初めと考えられる」

木像法明上人座像

「木造法明上人座像は厨子内に祀られている。被帽する。被帽しない像高は七九・九センチ。痩せた老相を呈し、面には皺や血管がある。耳は大きく特徴のある形をしていて、首は細く、喉仏が明瞭にあらわされている。持物は欠失している。右手は胸前で掌を上になく曲げ、左手は膝前で掌を上にして広げる。手の甲には骨や血管が浮き出ている。頭部は左斜め下に傾き固定。左手で掲げた経典をうつつむいて見る姿を現しているのか。全体に写実的で、制作年代は江戸時代前期と考えられる」

木像大通上人倚像

「木造大通上人倚像は背もたれのある椅子に座す像で、被帽しない座高は八五・〇センチ、沓下までの総高が一三四センチである。頭部は面長で、頬骨がやや張り出し、目は少し小振り、鼻筋は高く整い精悍な印象で写実的である。眉と唇の上には上人自身のものと思われる人毛が植え付けられ、こめかみと顎にもその痕跡がある。右手は胸横で錫杖を、左手は膝前で数珠をとる」

「頭部の首ホゾ内側と、体部の内側の全面と背面に墨書



大通上人木造内部

木像舜空上人座像

「舜空上人は大念佛寺の旧本堂を建立されました。上人の木造座像は被帽しない状態で、像高六八センチ。頭部を含む肉身は黄白色に近い肌色で彩色。やや面長で額が角張り皺が刻まれ、目は切れ長、唇は薄く閉口している。衣の彩色は紺地に金泥で描かれた袈裟の唐草紋や花紋が確認できる。胸前で合掌する。吊り袈裟は膝前に垂れている。銘記はないが、制作年代は江戸中期から後期と思われる」

※「法明上人像と大通上人像は写実的な彫り口から同時期同一工房での製作と考えられる。四上人像は、良忍上人↓法明上人・大通上人↓舜空上人の順で造立されたとみられる。銘記を伴った作者の明らかな、江戸彫刻の編年の基準となる像を含む、市域にのこる優れた肖像彫刻群であり、寺や地域の歴史を考えるうえでの貴重な文化財である」



大通上人木造頭内部

大念佛寺夏の行事



「鈴願成就」風鈴奉納

風鈴に願いをのせて

皆さまの願いごとを木札に記し、風鈴に添えて期間中奉納し、祈願させていただきます。

色鮮やかな風鈴に囲まれた風情豊かな境内で皆様をお待ちしています。

開催日時 八月二日(木)～九月二日(日)

六時(開門)～十七時(閉門)

場所 大念佛寺 山門前

料 金 二千円 風鈴・短冊・木札 ※祈禱料を含む

勸進場所 白雲閣 売店
※風鈴は九月一日まで期間奉納させていただきますが、八月三十日以降、お持ち帰りが可能です。※数に限りがありますので、先着順となります。

詳しくは、大念佛寺ホームページをご覧ください。

THE GHOST MUSEUM

昨年好評いただきました「幽霊博物館」。今年は令和四年に新しく大阪市指定有形文化財に登録された宝物を特別展示いたします。

開催日時 八月三十日(金)～九月二日(日)

十時～十六時

場所 延喜殿一階

料 金 大人(高校生以上) 千二百円
小人(小学生・中学生) 五百円
未就学 無料

※特別公演「幽霊寄席」は一回約三十分。二種類の公演(講談・かたりべ)をそれぞれ鑑賞することができます。※予約はありません。当日会場にてチケットをご購入下さい。



お寺でマルシェ

八月三十一日(土)～九月二日(日) 午前十時～午後四時 延喜殿三階

「おとも子どももうれしたのし祭り」という名前でマルシェをさせていただきます。丸一年になります。歴史ある大念佛寺さんでマルシェができること、とてもありがたい感謝しています。ありがとうございます。

おかげさまで、回を重ねるごとに、沢山の方々に足をお運びいただき、おとも子どもも賑やかに楽しい時間を過ごしています。ご来場いただいた方の「うれしい!」「たのしい!」の輪が大きくなっていて、企画運営している私たちが嬉しい気持ちで胸が一杯です。

会場では、ハンドメイド作品、ワークショップ(作る体験など)癒し(ハンドやフット、頭のマッサージやお爪のケア他)軽食(パンやコーヒー他)など、おとも子どもも楽しめる内容を取り揃えています。みなさんにも、「うれしい!」「たのしい!」を体験していただきたいです! 出店者の皆さんと一緒にお待ちしています!

精霊流し

八月十五日(木) 午前十時～午後四時 梁松院前

施餓鬼会

八月十六日(金) 午後六時 瑞祥閣前

施餓鬼とは六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上)と云って、生前の業因によって受ける六つの迷いの世界の一つである餓鬼道におちて苦しむ亡者に、食物や水を供養する法会です。

一、すべての命のおかげに感謝し、報恩の心を捧げる。
二、今あるこの身の幸せを自覚し、ご先祖様に手を合わせる。
三、貪りや、もの惜しみの心を離れ、施しの心、与える喜びを育む。
この三つが施餓鬼の大きな意義です。

万燈会

八月十六日(金) 午後七時 瑞祥閣前

燈明を灯し、霊を供養する万燈会は鎌倉時代、平家一門の供養のために始められた法要で、現在は全国各地で執り行われています。この一年間を通じて上げられたカップソーソクが本堂前にお供えされ、夕刻六時頃より、ソーソクに火が灯され、何千というソーソクに全て火が灯される頃には夜の帳がおり、万燈の明かりが本堂を照らします。



幽霊:「その身その姿のおしえ」

昔より、折に触れて語られる「幽霊の教え」を紐解いてみたいと思います。

「幽霊」を広辞苑で引くと、①死人の魂②死者が成仏しないで、この世に姿を現したものの③実際には無いのにあるようにみせかけたものとあります。「幽霊の教え」のお話は、三つの意味に依っているように思われます。「幽霊」が示す姿と③の意味合いから、その秘められた教えというものに思いを巡らせてみます。

「幽霊の教え」は、私たちにこの世に存在するものは、実際には一瞬一瞬の消滅の繰り返しであり、現在の「一瞬一瞬」に我々も存在している。逆にこの今の「一瞬一瞬」においてしかわれわれは生きる事ができない、といえます。過去や未来に思いを馳せられる人間の能力の発達は、人間独特のすばらしさではありますが、一方では人間を苦しめることにもなってしまう何ともいえない「発達能力」であるといえます。

絵図によく見られる「幽霊」の姿は、主に三種。一つは「うらめしや:」といいながら両手を前に垂らして前のめりに体が傾いている姿、二つには長い髪が後ろに引さずられている姿。三つめにはよくみられる足元が消えて無い姿でしょう。そして「前のめりの姿」は未来への心配や不安、「うしろ髪を引きずられる姿」は過去への未練や執着、「足元が消えて宙に浮かぶ姿」は今という現時点にしっかりと立てていない時間をおろそかにする不安定なところ、それぞれ「迷いの姿」を暗示していると言えられます。

このようにみると、「幽霊の教え」は反面教師的にその姿が描かれた、と考えられます。「過去の悲観」はここが作り出す過去への執着。「未来の心配」はここが作り出す未来への空想。つまり「過去の悲観事」「未来の心配事」はともに今のところが、過去や未来の在り方を乱暴に意味付けしてしまっているにすぎない。そして過去や未来の心配事や厄介事は全て現在時点のところが生み出している仮の思いにすぎず、大切なのはそこにはこだわらず、今出来ることを今しっかりとやれば、またそれかできないのではないかと私たちに教えています。



融通念仏ゆかりの地 熱田神宮

『三祖略伝』によると、良忍上人は尾張国知多郡富田の荘に生まれ、父の本姓は藤原秦氏兵曹道武と称し、知多一郡を領土とする。母は熱田の社頭大宮司の息女で夫婦仲睦まじく過ごされておられたが、なかなか子が授からず、熱田神社(後の熱田神宮)に参籠し祈願満願の夜、神明の感応により微妙な歌声を聞き、良忍上人の懐妊をさとしたと伝わる。熱田神宮の大宮司は尾張氏が代々継いでいたが、永久年間(平安時代)に藤原氏が受け継いでいる。

熱田神宮の創祀は、三種の神器の一つである草薙神剣の鎮座に始まる。それは、第二代景行天皇の御代に、日本武尊は神剣を今の名古屋市緑区大高町火上山に留め置かれたまま三重県亀山市能褒野でなくなり、尊の妃である宮簀媛命が、神剣をここに熱田の地にお祀りになったことである。以来、伊勢神宮につぐ社として、延喜式名神大社・勅祭社に列せられ、国家鎮護の社として、また一方では「熱田さま」「宮」と呼ばれ親しまれている。

祭神の熱田大神とは、三種の神器の一つである草薙神剣を御霊代としてよらせられる天照大神のことである。又、相殿神は「五神さま」と呼ばれ、草薙神剣とゆかりの深い神々で、宮簀媛命、建稲種命は尾張氏の遠祖として仰がれる神々とされている。



万部法要を終えて

今年の万部法要は仮本堂(瑞祥閣)内で執り行われましたが、参詣者の人数に制限があった事を鑑みて、今年も仮本堂(瑞祥閣)の前に特設舞台を作って厳修いたしました。今年の万部法要はご参詣の皆様にお勤め、お説教、奉納行事、イベント等を出来るだけ、近くでお参りしていただくと考え、特設舞台を設置して、初の野外に万部法要を厳修いたしました。

日々に光に照らされた菩薩様が石畳を通過し、お出ましになられると、参詣者の中から「こんなに間近でお参りできるとはなんと有難い」と言う声があがりました。お参りの方々が菩薩様に手を合わせ、お念仏を称えるお姿は、まさに速疾往生そのままの様子でした。



中祖法明上人が、人々に有難い聖衆来迎の姿を見せたいと願って、始められたこの法要。現代の多くの人々をご覧になり、心の拠り所として極楽往生の安心を得ていただき、来年も多くの方にご参詣いただきたいと思います。

寺庭婦人会創立四十周年を迎えて

寺庭婦人会会長 橋本 八代美

昭和五十九年に寺庭婦人会が発足し、今年四十周年を迎えました。末寺の婦人による会であり、現在一四〇余名の会員を有し、御本山からは、温かい援助やご協力を頂いております。

活動内容としては、写経会、御本山内外からの講師をお招きしたの講習、講演会、また、神社仏閣への研修見学会などを行い、会員相互の親睦を図るとともに研鑽を積んでいます。

また、会員の中の詠讚歌舞ならびに聖歌隊の方々は、万部法要時にそれぞれ奉納されています。寺庭婦人は、自坊においては住職を助け、檀信徒の架け橋となるよう務めておりますが、これからは婦人会での横の繋がりを大切に、自坊の発展に貢献できればと思っています。

末寺巡礼

佛智山 安楽寺 富田林市平町

富田林市の北部、平町の中心部の少し西へ坂を上ったところに在します。この地は東高野街道にほど近く、江戸後期には二千石を超えるほどの巨大な惣村「喜志五郷(宮・桜井・川面・大深・平)」のひとつとして大変栄えていました。



開基においては詳細は定かではありませんが、古くから村を護り、また憩いの場としてお寺を大事に引き継いでこられたことを感じます。

その証拠に、毎年十月のだんじり祭りの際には安全祈願法要を修され、町衆ひとりひとりに御本尊の御頂戴もされます。当寺御本尊は阿弥陀如来像。その傍らに秘仏地藏菩薩立像を安置され、境内の伊勢灯笼は富田林域では最も古い伊勢灯笼のひとつであり、その基礎の四隅には村民の願いを込めて削られた盃状穴も残っています。



小径

私は腰に持病があります。私にはどちらかと言うと痛い事を言わないので気づかれにくいですが、たまに痛みを言っていると「若いのに何言ってるの」とよく言われます。

外傷があり、血だらけの姿や包帯を巻いて目に見える事に対しては理解がありますが、内臓や心の疾患のような病気は本人には分からないので悪気なく傷つけることを言ってしまうことがあります。どうぞこれからは年齢性別に関係なく思い遣りの気持ちをもって接していきましょう。

智微

年中行事ご案内

孟蘭盆(法界大施餓鬼) 瑞祥閣
◎八月十六日(金) 午後六時

万灯会(境内)
◎八月十六日(金) 午後七時

大和御回在御出光(瑞祥閣)
◎九月七日(土) 午前六時

融通念仏会(瑞祥閣)
◎九月十六日(月) 午前十一時

ご一緒にお念仏を称えましょう。

百万遍会(大数珠繰り) (瑞祥閣)
◎九月十六日(月) 午後一時

数珠繰りの後、法主親下の身体堅固のお加持が参詣者一人一人に授けられます。

その後御札授与があります。

亀鉦まつり(瑞祥閣)
◎十月十五日(火) 午前十一時

本山に伝わる亀鉦をお祀りする法要の後、融通念仏会会員による詠讚歌舞奉納、「亀鉦由来和讃」等を詠唱します。

十夜会(瑞祥閣)
◎十一月十四日(木) 午後一時

仮本堂に於いて布教、詠讚歌舞奉納等があります。

後小松天皇(盃明殿)
◎十一月一日(日) 午前十一時

大和御回在御帰院(瑞祥閣)
◎十一月十七日(火)

除夜法要(瑞祥閣)
◎十二月三十日(火) 午後十一時

定例布教(延喜殿三階)
◎毎月二十六日 午後二時三十分

(日曜日の場合は翌日になります)

行事予定は変更する場合があります。

話せば心も軽くなる

大阪仏教テレホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。

月曜日・金曜日(八月休) だんわ 〇六(六九九九)九〇一〇 午後二時~五時迄

暑中御伺

融通通念佛宗 総本山 大念佛寺
管法長 吉村 晴英
宗務部長 田中 瑞修
教学部長 吉井 良久
庶務部長 好野 良博
財務部長 佐々木智祥

★写経のご案内
毎月十五日、午前九時三十分より午後三時まで、延喜殿三階にて写経(一巻千円)を行っております。

お問い合わせ
大念佛寺 宗務所
☎〇六-六七九-〇〇二六

THE GHOST MUSEUM 2024
祈りと語り心奪われるひととき
8/30(金) 9/1(日) 3日間開催

8/30(金) 9/1(日) 3日間開催

鈴をのせて 願成
8/1(木) 9/1(日)